

平成 18 年 1 月 26 日

報道関係各位

東燃ゼネラル石油株式会社
東京都港区港南 1-8-15 Wビル
代表取締役会長兼社長
ジー・ダブリュー・プルーシング
(コード番号: 東証一部 5012)
お問い合わせ先
エクソンモービル有限会社
広報渉外部
Tel: 03-6713-4400

東燃ゼネラル石油(株)平成 17 年 12 月期 業績予想修正に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 17 年 11 月 15 日に発表した平成 17 年 12 月期(平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日)の連結および単体業績予想を下記の通り、修正致しましたので、お知らせします。

1. 平成 17 年 12 月期(平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日)業績予想

連結業績予想：

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
今回修正予想 (A)	28,562	200	228	130
前回発表予想 (B)	28,770	300	330	200
増減額 (A-B)	▲208	▲100	▲102	▲70
増減率 (%)	▲1	▲33	▲31	▲35

(B)平成 17 年 11 月 15 日発表

単体業績予想：

(単位: 億円)

	売上高	営業損益	経常利益	純利益
今回修正予想 (A)	28,009	▲14	71	41
前回発表予想 (B)	28,400	90	170	110
増減額 (A-B)	▲391	▲104	▲99	▲69
増減率 (%)	▲1	—	▲58	▲63

(B)平成 17 年 11 月 15 日発表

2. 修正の理由

平成 17 年 12 月期の連結営業利益は、前回予想より 100 億円減の 200 億円となる見通しです。今回の修正は主に以下の要因によるものです。

(1) 石油製品

石油製品マージンは、前回予想を下回る結果となりました。これは第 4 四半期に原油価格が変動し、また 12 月の外航船舶運賃が高騰する一方、年末の灯油価格の上昇を除き、第 4 四半期において石油製品価格が低下したことによるものです。

(2) 石油化学

石油化学部門の収益は、引き続き堅調な需要を反映し、オレフィン、芳香族系製品を中心に好業績となりましたが、前回予想よりは若干低下しました。

(3) 経費の削減

経費が前回予想よりも削減されました。

(4) 在庫評価の影響

平成 17 年 11 月時点での予想では通年で約 130 億円の在庫評価による増益要因を見込んでいましたが、原油及び灯油を中心とした製品在庫の取り崩しにより、後入先出法に基づく低価法による在庫評価の結果、約 230 億円の利益要因(キャッシュ・フローへの影響はなし)が発生しました。

平成 17 年 12 月期の単体経常利益は、前回予想より 99 億円(58%)減の 71 億円となる見通しです。

尚、単体業績と上記の連結業績との差異は、主要な化学子会社である東燃化学株式会社の業績が好調であったことが連結業績を支えたことによるものです。

以上